

| | | | |
|--------|----------------------|------|--|
| 学校教育目標 | 基礎を身に付け「夢」に挑戦する生徒の育成 | 経営理念 | 東広島教育の基本理念である、『『夢と志』をもち、グローバル社会をたくましく生きる人材の育成』のもと、未来社会を切り拓くための資質・能力の育成に努めるとともに、将来の夢の実現及び生涯の持続的な幸福に向け力強く生き抜いていく力を身に付ける。 |
|--------|----------------------|------|--|

| 評価計画 | | | | | | 自己評価 | | | | 学校運営協議会委員評価 | | 改善方策 | | |
|------------|----|----------------------------|--------------------|----------------------|---------------------|--------|--------|--------|--------|-------------|---|------|---|---|
| 項目 | 重点 | 中期経営目標 | 短期経営目標 | 目標達成のための方策 | 評価項目 | 目標値 | 達成値 | | 達成度 | 評価 | 結果と課題の分析 | 評価 | コメント | 改善方策 |
| | | | | | | | 10月 | 2月 | | | | | | |
| 確かな学力 | 2 | ○自ら考える自律した学習のできる生徒の育成 | ○学習意欲の向上と基礎学力の定着 | ○授業の振り返りによる自己評価 | ○各学力調査 | 全国平均以上 | 105.0% | 101.2% | 101.2% | 4 | 各種学力調査においては、授業改善の取組により一定の成果が見られた。特に基礎・基本の定着に向けた取組は効果を上げつつあるが、教科や学年による差も見られる。 | A | ・学力定着が図れており、小中連携をしていきたい。 | 授業の振り返りを通して学習状況を把握し、指導の工夫や補充指導を継続することで、全体の底上げを図る。 |
| | | | ○情報活用能力の育成と個別最適な学び | ○ICT機器を効果的に活用した授業づくり | ○ICT機器を授業で活用 | 90% | 50.1% | 54.4% | 60.4% | 1 | 授業においては、電子黒板を用いて視覚的に分かりやすい授業づくりが定着している。一方で、タブレット端末については、調べ学習や個人での活用にとどまる場面が多く、学び合いや思考の可視化など、学習を深めるための活用が十分に進んでいないという課題が見られる。 | B | ・活用方法を試行錯誤しながらやり通してほしい。 ・先生方の中で、ICTの活用方法を出し合ったり、振り返りに活用したりするなど、学習の過程を支える活用を進める。 | 電子黒板の活用に加え、タブレット端末を用いて生徒の考えを共有したり、振り返りに活用したりするなど、学習の過程を支える活用を進める。 |
| | | | ○思考力・判断力・表現力の育成 | ○自己表現活動や学び合い教え合い活動 | ○わかりやすく説明や発表 | 80% | 66.0% | 66.1% | 82.6% | 1 | 学び合い活動により、自己表現や発表の場面が増え、説明しようとする姿勢が見られるようになったが、表現の質には差がある。 | A | ・学び合いによる共同学習により、授業改善を図っている。 ・表現活動を一層やってほしい。 | 学び合いの場を工夫し、伝え方を意識した指導を継続する。 |
| | | | ○探究的な学習の充実 | ○本質的な問いによる授業改善 | ○授業がよくわかる | 90% | 90.6% | 90.7% | 100.8% | 4 | 「授業がよくわかる」と回答した生徒の割合は、高い水準を維持しており、授業の分かりやすさについて一定の評価を得ている。一方で、さらなる向上を図ることの難しさが課題として挙げられる。 | A | 特になし | 授業のねらいや見通しを明確にした指導を継続する。また、振り返りや対話の場を工夫し、生徒一人一人の理解を丁寧に積み重ねていく。 |
| 豊かな心・健やかな体 | 1 | ○基本的な生活習慣の定着と豊かな人間性・社会性の育成 | ○積極的な生徒指導の推進 | ○高屋中「生活四訓」の徹底 | ○気持ちの良いあいさつ | 90% | 89.1% | 92.6% | 102.9% | 4 | 生活四訓の取組により、「出会う人に気持ちの良いあいさつができています」に肯定的に回答した生徒の割合は、全学年で90%を超え、あいさつを意識する生徒が増えたが、場面による差が見られる。 | A | 挨拶はよくできているのは素晴らしい。 | 教職員が率先して声かけを行い、日常の中での定着を図る。 |
| | | | ○不登校生徒への支援の充実と未然防止 | ○未来ルームの経営と教育相談の充実 | ○不登校生徒前年より改善した生徒の割合 | 40% | 48.1% | 45.1% | 112.8% | 4 | 前年度と比較して改善が見られた生徒の割合は、一定程度の成果は確認できるものの、10月の中間評価時点よりやや低下している。様々な生徒の状況が多様化・長期化する中で、短期間の改善が難しいケースも見られ、支援の継続性や関わり合いのやり方を課題として挙げられる。 | A | ・親と子と別々に話されると、不登校理由が少し見えてこないかと…。 | 引き続き、教育相談や個別支援の取組を継続するとともに、生徒一人一人の状況に応じた支援計画を見直す。 |
| | | | ○異学年集団での協働活動の推進 | ○学校行事・生徒会活動・部活動の工夫 | ○自己肯定感 | 80% | 80.2% | 80.9% | 101.1% | 4 | 行事や学級活動を通して自己肯定感を感じる生徒が多かった。 | A | 特になし | 日常的に良さや成長を認める関わりを意識的に行う。 |
| | | | ○キャリア教育の推進 | ○読書活動の推進 | ○本を読むのが好きです | 80% | 60.2% | 57.3% | 71.6% | 1 | 読書活動への意識は低いままであった。習慣化には課題がある。 | B | ・好き嫌いでなく、読む機会としてアンケートにすればよい。 ・図書の内容をもっと工夫する必要があるかと。 ・電子書籍の活用。 ・文字に触れぬ環境。録音を引などを入れても、読書は何の為にやるのか考える必要がある。 | 朝読書や図書紹介など、読書に親しむ機会を継続する。 |
| 信頼される学校 | 3 | ○周りの人に感謝し地域に貢献できる生徒の育成 | ○地域貢献活動の推進 | ○ボランティア活動への参加 | ○自己有用感 | 80% | 83.5% | 85.3% | 106.6% | 4 | 学級や学年、生徒会、部活動等で役割を担う活動を通して自己有用感を感じる生徒が多かった。 | A | 特になし | 生徒が活躍できる場を意図的に設定する。 |
| | | | ○小中連携の充実 | ○定期的小中連携連絡会の実施 | ○スマイルチャレンジの実行 | 80% | 60.9% | 78.7% | 98.4% | 3 | 自分自身で取組目標を設定し、取組100%「全く～しない」という質問項目の「全」の言葉をなくし、自分なりの取組状況を「できた」というかたちで評価させた。 | A | ・ノをやめて減らすこと、目的を共有したい。 ・努力目標にシフトしたことは良い。 | 活動の目的を共有し、系統的な取組を進める。 |
| | | | ○保護者・地域への情報発信 | ○通信の発行及びHPの更新 | ○学校の様子がよく分かります | 95% | 81.5% | 88.0% | 92.6% | 2 | 通信やHP更新により、情報発信はやや改善された。 | A | 特になし | 発信内容や頻度を工夫し、分かりやすい情報提供を行う。 |
| | | | ○働き方改革の推進 | ○整理整頓、期限厳守、業務の明確化等 | ○時間外在校時間月平均 | 45h以下 | 46.2h | 46.4h | 97.0% | 3 | 時間外在校時間月平均は、前回とほぼ同じであるが、教員によって偏りが残る。 | A | 頑張りました。 | 引き続き、働きやすい職場環境整備と教職員の健康管理に努めていく。 |

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

■自己評価
 4...目標を上回って達成 (100≦達成度)
 3...目標どおりに達成 (95≦達成度<100)
 2...目標をやや下回って達成 (85≦達成度<95)
 1...目標をかなり下回って達成 (達成度<85)

■学校運営協議会委員評価
 A...とても適切である
 B...概ね適切である
 C...あまり適切でない
 D...全く適切でない (N...判定できない)